

学校だより

にしづえ

甲斐市立双葉東小学校

平成22年3月12日号

「一期一会」

9日午前中から降り続いた雪により、10日は始業時間を1時間遅らせて学校が始まりました。連絡等でご迷惑をおかけしたご家庭もあったかとは思いますがお許しください。北巨摩在住の職員の中には、車庫や小屋がつぶされる被害の出たものもあつたくらい湿った春のどか雪でした。ちなみに我が家の直径約20cmのノウゼンカズラの木もポキッと折れてしまいました。数日前までの20℃を超える暖かさがうそのように9日には雪が降り、まさに「三寒四温」だなあなんて思い込んでいたところ、これは冬の天気変化を表す言葉と知って赤面してしまいました。ちなみにこの時季は4日周期というそうです。

ところで、年度末の3月に入ったと思ったら、もう12日の日を数えました。『1月は行く、2月は逃げる、3月は去る』の言葉が何か、あせりと共に実感として感じられます。出会いと別れ、初めと終わり、いずれも切り離して考えることは出来ません。3月は、別れの時季でもあり、終わりの時季でもあります。だからあせりも必然だと感じています。2日には全校を挙げて6年生に贈る会を盛大に行いました。そして、19日には卒業式が行われ、6年生が卒業していきます。25日には修了式が行われ、それぞれ進級します。29日には離任式があり、何人かの教職員が児童との別れをしなければなりません。



『一期一会』という言葉が脳裏をよぎります。単純に字面から考えると「人と人との出会いは一生に一度のことなので、人との出会いは大切に下さい。」と捉えることが出来ます。しかし、茶道に由来することわざだけに、本当の意味は「いつも一緒にお茶を飲んでいる仲間であっても、その日、その時間のその人とは始めて会うわけだから、その空間・場面は二度と戻らない。一瞬・一瞬が常に一生に一度の出会いである。だから、その一瞬・一瞬は非常に貴重であり、大切にしなければならない。」ということです。

人間は生まれたときに確実に死が約束されるように、人は誰でも両親との出会い、家族との出会い、友達との出会い、先生との出会いもまた、確実に別れが約束されています。だからこそ出会いの一人一人を大切に、そして多くのことを学び、心豊かに生きていかなければ意味がありません。

『一期一会』の心を持ち続け、3月の「別れと終わり」の季節を感謝の気持ちで過ごし、4月の「出会いと始め」の季節に夢を託したいものです。

卒業する6年生へ

6年生の皆さん卒業おめでとうございます。

皆さんの姿を見ていていつも感心していました。登校時の元気の良いあいさつの様子。授業に向かう積極的な姿勢。時間内で一生懸命やる清掃時の様子。精一杯遊びまわる休み時間の様子。さようならの言葉を残しての下校時の様子。双葉東小学校は3年前に山梨県教育委員会から道徳教育の指定を受け、2年前からは文部科学省からも指定を受け、10月29日には最終年の公開授業研究会を開催しました。皆さんの様子を見ていますとまさに、道徳教育＝「心の教育」の申し子のような気がしていました。そんな心の教育を推進するに当たり、学校では「やさしい心あふれるえがお」をキャッチフレーズにそんな人間像を目指し、取り組んできました。あふれる笑顔になるためにはやさしい心の持ち主でなければ出来ません。やさしい心とは、周りの人々を大切に思い、常にこまやかな心遣い出来ることです。あふれるえがおからは優しい言葉が発

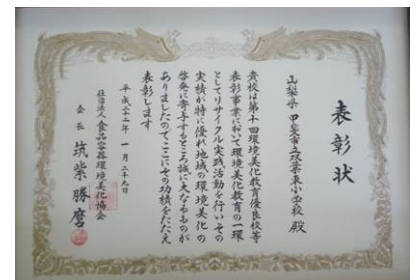
せられます。逆を考えて見てもわかります。攻撃的な人や悪巧みをしている人の顔つきはどうでしょう。そうです。やさしい心を持っているからこそあふれる笑顔が出来るんです。そのためにあいさつの質を問題にしたり、日常生活の中から「ちょっといい話＝双葉東小学校の花咲山」の取り組みも行ってきました。道徳授業の中でも学級で、学年で取り組んだはずです。10月29日の授業では白砂先生のピアノ修理の話から『感謝』の意味を体感したと思います。感謝の心も「やさしい心あふれるえがお」につながることを白砂先生自身を見て感じたことと思います。

ところで、皆さんは宮沢賢治の『よだかの星』を図書室から借りて読んだことがあると思います。こんな物語です。よだかは昆虫を食べる鳥です。ほかの鳥から醜いと馬鹿にされていました。ある日、鷹から無理なことを言われ、そうしないと殺すと脅されます。仕方なく空を飛びまわっているうち、一匹のカブトムシを飲み込みます。その時こう考えます。「ああ！カブトムシや、たくさんの羽虫が、每晚僕に殺される。そしてその唯一つの僕が今度は鷹に殺される。それがこんなにつらいのだ。…」よだかは自分が生きるために昆虫を食べます。昆虫の命をもらうことで自分の命が続いていきます。命をもらわないと生きてはいけない、それがつらいとよだかは言うのです。食べるということは他の「命をもらう」ことです。私たちも人間も同じです。『よだかの星』はこういうことを考えさせる物語です。だから私たちは食事のたびに「いただきます」と心を込めて言うのです。そして食事を作ってくれる人・食べ物自体を作ってくれる人に対する感謝の気持ちの表現でもあります。

皆さんは今後ご両親はもちろんのこと、多くの人々と関わって生きていきます。双葉東小学校で学んだ「感謝の心」と「やさしい心あふれるえがお」をいつまでも持ち続けて生きていってほしいと願います。今後の活躍を期待しています。

表彰されました！！

2月26日（金）に山梨県環境創造課副主査様と東京から食品容器環境美化協会役員3名の方が来校され、全校集会の中で児童会長ならびに赤十字委員長に伝達表彰が行われました。これは1月29日に東京プリンスホテルで第10回環境美化教育優良校等表彰式が行われ、本校が優良校として表彰されたものを伝達していただいたわけです。この表彰は食品環境美化協会が、環境美化教育に独創的、継続的に取り組み、公共の場所の美化、飲料空き容器等のリサイクルを実践している小中学校等を47都道府県の推薦に基づき表彰するもので、「散乱防止部門」と「リサイクル部門」での選定でした。本校は「リサイクル部門」での受賞となりました。受賞理由は、これまで児童会（赤十字委員会）が毎週金曜の朝、全校児童の家庭に呼びかけて年間を通して空き缶・ペットボトルキャップ及びパソコンの使用済みトナーインクのケース回収を行ってきたことです。それらを業者さんに買い取ってもらい、そのお金を甲府城北ロータリークラブの協力の下、毎年ラオスの児童に教育費として贈呈している活動が認められたものです。



3月10日に全校集会の中で甲府城北ロータリークラブの方に募金を贈呈しました。集会は、雪のため1時間遅れの始業と同時に始まりました。子どもたちは苦労して学校にたどり着き、しかも停電中で体育館はやや暗く、寒く、さらにマイクは使えないという悪条件の中、贈呈式が始まりました。そして、5年制のラオスの小学校の様子を、ロータリークラブの方から話しを聞きました。ラオスの小学校と同じ情景の中での集会ただけに、子どもたちも真剣に聞き入り、今後のリサイクル活動の取り組みがさらに強化されることを予感できるものでした。

今年度は4月から、国レベルの表彰や、マスコミ等に双葉東小学校が数多く取り上げられました。そして多くの方々に喜んでいただきました。これも6年生を中心とする児童586名のあらゆるところでの活躍があったからです。21年度はまさに学校力が飛躍的にアップした年であったと総括できます。ありがとうございました。